

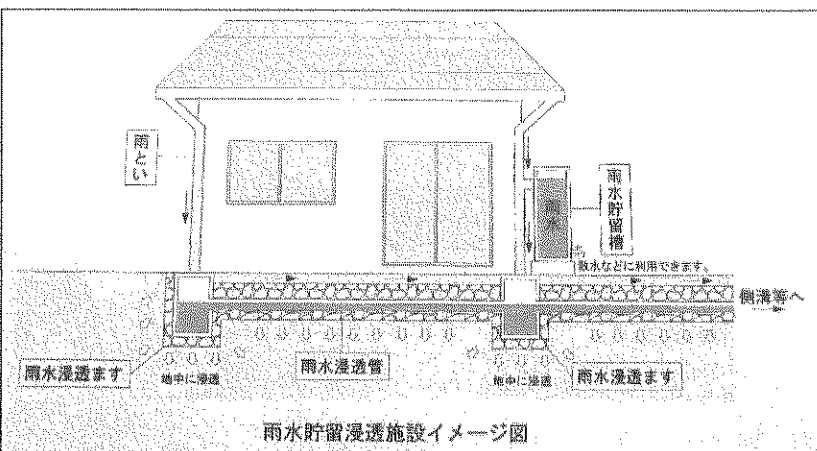
# 各戸雨水貯留施設の設置にご協力を

## 内水氾濫対策で市が新しい補助制度を創設

市は雨水対策基本計画を3月に作成し、内水氾濫対策の1つとして住宅に貯留施設などを設置し、浸水被害を軽減する補助制度を4月から整備しました。市は積極的な利用を呼び掛けています。

近年の都市化の進展により、道事業計画区域の宅地です。これまで雨水を一時貯留する役割を果たしていた田、畑、レンコン畑が減少、地下に浸透していた雨水も少なくなっています。強雨になれば雨水が一度に流れ出し、水路もあふれ浸水被害が発生しています。そこで市は市民に防災に対する関心を持ってもらうとともに、市民と行政が共同して雨水の流出を抑えることで少しでも浸水被害を軽減するために、雨水貯留浸透施設(貯留槽、浸透ます、浸透管)を設置する市民に、費用の一部を補助する制度を創設。補助対象地域は市の公共下水道

近年の都市化の進展により、道事業計画区域の宅地です。これまで雨水を一時貯留する役割を果たしていた田、畑、レンコン畑が減少、地下に浸透していた雨水も少なくなっています。強雨になれば雨水が一度に流れ出し、水路もあふれ浸水被害が発生しています。そこで市は市民に防災に対する関心を持ってもらうとともに、市民と行政が共同して雨水の流出を抑えることで少しでも浸水被害を軽減するために、雨水貯留浸透施設(貯留槽、浸透ます、浸透管)を設置する市民に、費用の一部を補助する制度を創設。補助対象地域は市の公共下水道

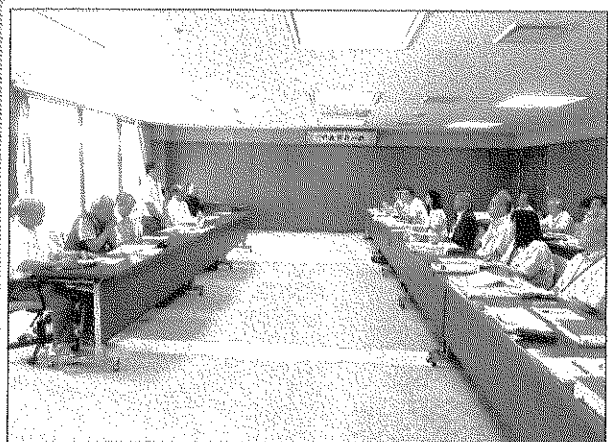


雨水貯留浸透施設イメージ図

雨水浸透施設	雨水貯留施設	対象経費	補助上限額
(1) 雨水浸透ます及び雨水の集排水のための配管等に要する材料費、工事費、諸経費の合計額 (2) 雨水浸透管の配管等の諸経費の合計額 (3) 自ら工事を行う場合は購入費用	(1) 雨水貯留槽及び集排水のための配管等に要する材料費、工事費の合計額 (2) 自ら工事を行う場合は購入費用		
(1) 雨水浸透ますは上記の対象経費の2分の1以内(上限20,000円/基) (2) 雨水浸透管は上記の対象経費の2分の1以内(上限7,000円/m) (3) 既存建築物では1敷地総額10万円、新築・増築建築物の時5万円が上限	上記対象経費の2分の1以内(上限額) 100~500%未満15,000円/基 500%以上30,000円/基		

補助の内容は左記の表になります。(注)消費税額は含む

# 県労連自治体キャラバン



## 最低賃金の引き上げや公務公共サービスで働く労働者の労働条件の改善で懇談

大分県労働組合総連合(安藤嘉洋議長)は県下の

各自自治体と「住民の暮らしを守り、地域経済の活性化、持続可能な地域づくり」の課題で懇談をしています。

8月1日は日田市と公務公共サービスで働く労働者の賃金が、最低賃金に張り付いていることが地域経済の地域経済の疲弊を招いているのではないかとということなど13項目について意見交換をしました。

参加した清掃関係の会社で働く労働者は、賃金など

劣悪な労働条件の実態と改善を求める組合の要望にも対応せず無視し、組合役員に対して一方的に休職を命じ一時給与を払わないことなどが報告されました。副市長は「今後も安定的なごみ収集が出来るかについて、今の話は事実であれば看過できないので調査をする」と答弁。この懇談には年金組合や建交労から7人、日限、大谷両市議も参加しました。